
ワンピース～真祖の吸血鬼～

携帯談話

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワンピース〜真祖の吸血鬼〜

【Nコード】

N9780R

【作者名】

携帯談話

【あらすじ】

ワンピースの世界に最強の吸血鬼がいたら？みたいな話の予告編？みたいな感じのお話？です。かなりの駄文の上中途半端です。自己満足ですはい

(前書き)

自己満足です。

携帯が家の布団の中でふと思いついたから投稿しただけですので
あしからず

「よう、ロジャー。ラフテルはどうだった？」

一人の青年が空中に浮きながら『海賊王』に聞く

「おう！！良かったぜ！！でもなんでそんな事を俺に聞くんた？あんなら自分で………ってそうか、そうだったな」

ロジャーと呼ばれた男は船の甲板に立ちながら目の前の恩人であり友人の青年に自分の感想をに言う。その後何故自分にそんな事を聞くのか聞き、自分で行かないのか、というがすぐさまある事を思い出し言葉を止める。

「んな顔すんなって。それにその様子じゃ楽しめたみたいだしな俺はそれだけで十分さ」

「ん？どつやらどこまでみたいだな。じゃあな、また会えたら会おうぜ」

青年はそう言うとすぐに消えて行った

十数年後 シャボンディ諸島

「よう、レイ坊」

木の上で期待のルーキー達の戦闘を見守っているレイリーに懐かしい声が聞こえた

「やれやれ、もう坊、という歳はとっくに過ぎているつもり何だがね」

レイリーはそう眼の前の銀髪の青年に話しかける

「はっは、俺からしたら今生きている奴は皆ガキだよ」

「はあ、やれやれ敵わないねえ」

レイリーの表情には先ほどとは違う感情がうかんでいた。それは変わらない存在への敬意か軽蔑か、はたまた同情か

そんな感情を感じ取ったのか青年は話を眼下で戦うルーキーに向ける

「それで？あいつらはレイ坊のお気に入りか？」

「まあそんなところかね」

答えを聞いた青年は興味深かそうにルーキー達をみる。そして

「ん？ありゃあ悪魔の子か？へえ、てことはあれは麦藁の一味か。まあ、ドンマイだな。今の麦藁達じゃボルサリーノの餓鬼はたおせねえな」

「はっはっは、相変わらず手厳しい。しかし、新しい芽は守りたくなるのが老人というものでは？」

レイリーは半ば確信犯で青年に聞く。これでもし青年が動かなくても自分が動くつもりなのだから何とも言えない物がある

「っは、正直あいつらはどうでもいいがああ悪魔の子だけはな、母親から頼まれていてな。（それにアレの事もある）」

「ということはあるあなたが行くのかね？」

レイリーがそう聞くと、

「ああ、面倒くさいが？約束？だからな」

青年はだるそうにつぶやくと一気に木を駆けおり、黄猿と麦藁の一味の間に入る

「「「「！！！！？？？」「」「」

その場にいた全員が行動を止める。少しの静寂の中黄猿が青年に聞く

「おやおや〜、まさかとは思うけど、『最強種』かい〜？」

「「「「！！！！」」」」

黄猿にの言葉にまたもやその場にいた者たちが驚愕する。なぜなら今、黄猿が言った『最強種』とは遙か昔、それこそ海軍る前から存在し、その後現在に至るまで一度も敗北せず存在し、海軍も幾度となく討伐隊を差し向けているがことごとく壊滅され、彼は戦闘で殉職した海軍将校の半数を自身で殺し、その他にも過去に何度か世界政府に一人で戦争を仕掛けその全てを引き分けて終わらせてきた存在で、かつての海賊王とも親友同士だった者なのだから。そんな存在が今、眼の前に居る。何故？何が目的？まったくわからない。故に黄猿は海軍、ひいては世界政府にとって目の上の瘤になっている存在にきいたのだ、お前は最強種か？目的は何だ？、と

「ああ、あつてるぞ、ボルサリーノ。さてさてルーキーの皆さん、初めまして、俺が『最強種』アレイスター・クロウリーだ」

かくして最強の存在、『最強種』アレイスター・クロウリーの物語は終焉を迎えるのである

上のだけじゃ全く何も分からない上に意味不明の文になっているので此方で詳しいプロフィールを

名前：アレイスター・クロウリー

身長：192cm

体重：84kg

悪魔の実：ヒトヒトの実 モデル『吸血鬼』Ver真祖

能力：遙か昔に吸血鬼になった為吸血鬼化による異常なまでの身体能力と自身の研鑽により身体能力だけでも中将位は相手にできる。また、吸血鬼化に伴い発祥した魔力を用いての魔法、魔術の仕様の

可能。これも長年の研鑽によりあり得ない域に達している。また、真祖の為日光は当たっても大丈夫。

得意技：スピア・ザ・グングニル（某東のレミ〇ア様の奴）

マスタースパーク（同じく某東の〇香さんの奴）

ほかにもいろいろありますがこの辺で

(後書き)

激しく自己満足ですねw

激しく駄文でしたがどうでしょう？自分としては今のところこれ以上書く気はありませんが、ご意見などありましたらお願いいたします

場合によっては書くかも知れません。

それでも今書いているのが終わってからですが

意見とかももらえたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9780r/>

ワンピース～真祖の吸血鬼～

2011年10月8日03時50分発行